

長野市長野大通りの自転車道路の社会経済的評価に関する研究

平成 26 年 2 月 小林 史弥

要旨

目的

近年、地球温暖化防止の観点から自転車がクリーンビークルとして注目を浴びており、日本でも地球温暖化防止大綱にその重要性が明記されている。また、自転車は、買い物・通勤通学・レジャーなど様々な目的で、年齢を問わず世代を超え多くの人々に利用されていて、排気ガスや騒音を出さず、地球温暖化対策としても大いに期待できる交通手段とされている。今後自転車利用を促進していくにあたって、有益な自転車道路を整備していく必要がある。そこで本研究は長野市長野大通りを対象にして自転車道路整備の環境便益を評価することを目的とする。

方法

自転車道路を整備する事に対して、自転車道路の様々な形式とトレードオフの関係にある負担金額をプロファイルに含めた選択型コンジョイント分析を用いて、長野市長野大通り自転車道路の社会経済的評価を試み、特に注目する属性の水準に対する便益評価を行った。

結論

長野市長野大通りにおける自転車道路の評価で最も高い効用を示したのが自転車道路の形式であり、次いで防護柵の有無であった。しかし、植樹帯を設けることに対して、長野市民の効用は低下する結果となった。さらに、最も効用が高い場合として、自転車道路の形式を「自転車道」にし、植樹帯の有無を「無」、防護柵の有無を「有」にする場合の評価額について試算した結果、長野市全域としての支払意思額は 2 億 6309 万円（95%信頼区間は 7004 万円～4 億 5615 万円）の評価額が推計された。これは、長野市にある既存の自転車道路整備における整備費用よりも高い結果となった。よって長野市長野大通りに上記で述べた形式の自転車道を整備することは有益だといえる。

指導教員 藤居 良夫 准教授